令和７年度　社会福祉法人弥生福祉会　事業計画

（法人を取り巻く現状）

令和６年度は、新型コロナウイルス感染症の５類移行から１年が過ぎ、予防対策がコロナ流行時より緩んだことから、様々な感染症が流行した年でありました。

手洗いなどの基本的な予防対策の重要性を今一度、確認したところです。

このように感染症に注意しながら、令和７年度も各種行事に全力で保育に当たりながら、子どもたちの成長をサポートしていきます。

また、行事についても、計画した事業は完全実施に向け取り組んで参りたいと考えています。

さらに、３年間の試行を経て、令和８年度から本格実施される「誰でも通園制度」の試行最終年になり、制度設計が固まる年になります。

この制度は、０歳児から３歳児未満の未就園児を対象として、両親が働いている、働いていないに拘わらず、誰でも月１０時間を限度に保育園を利用できる制度になります。

様々課題もあるように思いますが、今後の制度設計を踏まえ、対応していきたいと考えております。

Ⅰ．保育の在り方～保護者とともに～

コロナ流行期に減少した出生者数は、国の予測を上回るペースで進行し、国内の年間出生者数は７０万人を割ってしまった。

この回復は、至難といわれ、保育園もこの少子化社会を念頭に保育事業に当たっていかなければならない。

また、子どもたちを取り巻く環境は、様々なメディアなど情報の洪水の他、少子化、核家族化、グローバル化、価値観の多様化など大きく変化しており、子どもたちに潜在している能力や好奇心を引き出し、集団生活を通して、子どもたちの体幹向上など自立を促し、健やかな成長を目指した子どもを真ん中にした保育を目指していく。

Ⅱ．職員の質の向上～別表「研修計画」

今後の少子化進展予想からか、保育士養成機関の在学者も少なくなり、児童福祉施設の運営を担う人材の確保が大きな課題となっている。

また、保育を取り巻く環境は大きく変化し、職員もこの変化に対応していくことが求められている。

こうしたことから、保育の質を高めていくため、新たに法人職員となった新人保育士をはじめ、若手保育士の人材教育について中堅職員による日常的な指導をはじめ各種研修により人材養成に努めていく。

この変化する保育環境は、中堅職員の質の向上も求められており、若手職員と一緒になって学びの機会を拡大し、保育士全体の質の向上を図っていく。

昨今、「子どもの人権の遵守」に努めるべき保育士の「不適切保育」、「個人情報の漏洩」などが相次ぎ報告され社会問題化している。

保育者が備える知識や行動の在り方を全員が共有するとともに職員の待遇改善や働き方改革など、職員が働きやすい風通しの良い職場の実現のため、職員同士での連携や業務の点検・確認とともに議論しながら改革を目指していく。

このような考えのもと、別表のとおり、令和７年度の職員研修計画に沿って、人材育成に努めていくが、研修を終えた者が、重要と考えたことについては、職員会議などを通して共有するよう努めていく。

Ⅲ．災害に備えて

令和６年元旦、能登地方を震源とする大規模地震が発生し、多くの犠牲者やけが人、建物の倒壊など甚大な被害がもたらされました。

真冬に起きた大惨事に呆然とするとともに、自然災害の怖さを改めて実感しました。

私たちの地域も過去、幾度となく大災害に見舞われた地域であり、今後においても、いつ大地震が襲ってくるかも知れません。

さらに能登地方では、９月に入り線状降水帯による大規模洪水被害に見舞われ、地震からの復興が緒についたばかりの所に追い打ちをかけるように洪水が襲い、地域の方々の気持ちを思うとやるせなさが残っている。

また、今冬は、大雪にも見舞われるなど、二重、三重の苦しみとなり、被害にあった方々に心からお見舞いを申し上げるものである。

この冬、帯広・十勝を襲った大雪は、物流はじめ多くの企業活動・社会活動の停滞と混乱をもたらし、保育園においても、被害はなかったものの、道路の除雪が進まず、出勤できない職員が多数でたところである。

園児の登園もそれぞれ１人から３人程度であったため、出勤した職員で対応できたが、様々な状況を想定した場合、開園時間までに通路の除雪を行うことや駐車場の除雪が進んでいない場合の送迎の場をどう確保するか、除雪が進まず給食食材をどのように確保するか、着雪による電線の断線など、多くの教訓となる事柄を想起させた。

真冬に災害が発生した場合を想定すると、冬特有の暖房、灯りなどの重要性を再認識した。

このため、災害の様々な場面を想定した対応策について、代替措置を含め、更なる検討の必要性がある。

さらに、普段から火事、洪水、地震などの災害を想定した避難訓練を実施し、万が一に備えた食材、備品などの備蓄も進めていますが、「自分の身は自分で守る」意識を高めていくため、より実践的な避難訓練になるよう努めていきます。

また、保護者への情報伝達手段として各家庭との連携のため「一斉メール」を活用します。

Ⅳ．ひばり保育園建て替え

令和４年度の基本設計の成果を受け、令和５年度に実施設計を行い、本年６月建築工事に着工した。

世界的に流行したコロナの影響や大規模紛争、円安などから建設資材や人件費などが異常な高騰を見せ、建設費、法人負担額も大きな事業費となりましたが、国の補助、帯広市の補助などを頂きながら法人負担が可能と判断し、工事着工し、令和７年１月末に新園舎が完成し、２月３日から新

園舎での保育を開始したところである。

今年度末までに旧園舎の解体撤去工事を完了させ、令和７年６月までに、残る外構工事（駐車場、園庭整備、フェンス工事等）を行い、全工事の完成を目指しています。

別紙

令和７年度　理事会等開催予定

自主監査（会場：法人本部）

５月１４日（水）　令和６年度決算
８月２１日（木）　令和７年度第１四半期会計、業務
１１月　６日（木）　令和７年度第２四半期会計、業務
２月１２日（木）　令和７年度第３四半期会計、業務

理事会（会場：法人本部）（出席者：理事、監事）

５月２２日（木）　令和６年度事業報告、令和６年度決算、監査報告、評議員選任・解任委員の選任、役員・評議員選任候補者の提案議決、評議員会議案
６月　６日（金）　理事長の選定
１０月２０日（月）　令和７年度前期事業報告
３月１６日（月）　令和８年度事業計画、令和８年度予算、規程改正、評議員会議案

評議員会（会場：法人本部）（出席者：理事、評議員、監事）

６月　６日（金）　令和６年度事業報告、令和６年度決算、監査報告、役員の選任
３月２４日（火）　令和７年度事業計画、令和７年度予算

評議員選任・解任委員会（会場：法人本部）（出席者：理事長、評議員選任・解任委員）

６月　６日（金）　評議員の選任

新年会（会場：イン・ザ・スイート）（出席者：理事、監事、評議員、評議員選任・解任委員、職員）

１月１６日（金）

令和７年度　事業計画

あじさい保育園

（あじさい保育園の現状）

４月当初園児１２５名からのスタートを切り、その後、引っ越し等の理由で途中退園児が１名、在園児の兄弟である０歳児の入所が１１名、２歳児１名、３歳児２名が増え、３月末１３７名の園児が登園している。また昨年に引き続き、広域入所児童が３名存在し（音更２名、幕別１名）、年度末には退園が決まっている。新型コロナウイルスやインフルエンザ、アデノウィルス等の感染症が流行することもあったが、大流行にまで及ばすにすんでいた。

行事等もコロナ前の状況にかなり戻りつつあり、保護者の参加率がとても高く、他のクラスの取り組みを一緒に観覧できることがとても新鮮で、行事後の感想を見ても、我が子以外のお子さんの様子を見て取れるよい機会になっている。また卒園児クラス会の実施も例年通り実施でき、園児や職員、お迎えに来た保護者が卒園児の成長を見ることができ、保護者に保育を伝える良い機会となった。

Ⅰ．多様化する保育ニーズに応える保育園

１．あじさい保育園年齢別保育内訳

年齢区分	令和７年度	令和６年度	
	４月当初	４月当初	３月末
０歳児	１０	４	１５
１歳児	２１	２１	２１
２歳児	２５	２４	２４
３歳児	２５	２５	２６
４歳児	２５	２５	２５
５歳児	２５	２６	２６
合計	１３１	１２５	１３７
定員比	１０９％	１０４％	１１４％

２．保育の在り方

子どもも大人もスマホ、SNS が当たり前になった環境だからこそ、保育園の暮らしの時間に人や遊びの中での実体験や様々な感情に一人一人が出会うことの大切さを感じる。日常の遊びの充実や仲間の中での楽しい経験や悔しい体験など感情が動く保育を行っていきたい。今年度はあらためて自然環境の中で子どもたちが育つ意味、大切さを想うと近くの札内川付近での活動を豊かに繰り広げられるかを職員と考え、実践を積み上げ、子どもたちに実体験を通して学んでいくことの大切さを伝えていきたい。また保護者には「できる」「できない」ではない子どもたちの育ちを共有できるよう、行事だけではない日常の暮らしの様子を写真の掲示など、工夫して伝えるようにしていきたい。

３．地域子育て支援センターの在り方～別添「帯広市地域子育て支援センターあじさい　チラシ」

令和７年１０月から「地域子育て相談機関」として、地域子育て支援センターが妊産婦から１８歳未満を対象に相談業務を行うこととなる。自治体も手探りの状況で実施に至ることになり、職員も研修を受けながら、関係機関とつながり、縦で子どもの育ちを見守ることになる。実態を掴みながら、今までも法人で行ってきたことを大切にしながら行っていきたい。また、昨年に引き続き妊娠８か月のマタニティさんが来園する後期面談も実施し、出産の不安を取り除き、子どもの成長を楽しみに子育てができる機会にできるようにしていきたい。

Ⅱ．職員の質の向上～別表１「職員体制」

新しい職員を２名迎え、改めて職員同士のチームワークが求められる年度となる。新入児を含め、支援を必要とするお子さんが各クラスに数名いることで職員とパートさんが多く配置される体制となり、更に職員同士の連携が必要となってくる。またパートさんにも支援の必要なお子さんの見方、かかわり方の理解を共有する必要性もかなり多いので、パートさんを含めた学習会がもてるようにしていきたい。また、中堅職員の層が増えることから、子どもたちとの遊びの充実や保護者に保育を伝えることを具体的に実施できるよう会議や日常の会話で話し合いながら積み上げていきたい。引き続き、主任保育士を中心に、中堅職員の役割を更に明確にし、保育園全体の課題をみんなで共有し創り上げていきたい。

Ⅲ．施設整備

屋上立ち上がり部シーリング工事および、戸外の鉄骨階段の塗装修繕など施設補修に関する支出が見込まれる。

Ⅳ．地域等連携（感染症の状況を踏まえながら）

１．地域との交流

保育園が町内会行事への参加や、保育園行事へ地域の方をお誘いし、地域の中にある保育園として支えていただける環境を整える。時期を見て、近くの事業所（グループホームや支援事業所）との交流も継続していく。また支援センター「みんなのひろば」への呼びかけとして、卒園児の祖父母や町内会の方々への声掛けを行っていき、世代間の交流を継続していきたい。

２．幼保小中連携

小学校との連携として、長い歴史の中で大切にしてきた光南小学校との交流を行う環境を整えていきたい。また小学校への引継ぎやエリア研修会への参加（近隣の保育園、幼稚園、小学校、中学校、高校との交流）を積極的に行っていく。

３．祖父母との関わり

在園や卒園した祖父母の方々へ行事（収穫祭、餅つき）の参加と交流を図ってき、地域の子どもたちを支えていただく環境づくりをしていく。

４．保育士養成支援

年数回、短期大学、養成校の実習生の受け入れや学生アルバイトの受け入れを行う中で、保育士養成として指導を行っていく。

Ⅴ．年間行事会議スケジュール～別表２

令和７年度　事業計画

こでまり保育園

（こでまり保育園の現状）

こでまり保育園は、通常保育をはじめ、地域子育て支援センター、一時保育事業を運営しています。平成１５年の開設以来、「保育理念」のほか、「ほいく」に掲げた「運営方針」及び「保育目標」に基づき、「未来を拓くたくましい人づくり」を実践してきています。

定員は９０人で、令和７年４月１日時点の０歳～５歳園児数は９８人を予定しています。

職員は、園長はじめ任保育士及び１５人の正職員保育士（再任用職員を含む）と事務職１名、栄養士１名、パート職員２３名で運営しています。

近年の急速な少子化の進展は、帯広市でも年間出生者数が大幅に減少し、２０２３年は９００人を割る事態となっており、保育園を取り巻く環境は益々厳しい状況になっています。

少子化の進展に対応した運営などについて整理していきたいと考えています。

また、こでまり保育園は、建設から２０年が経過し、今後、修理やリニューアル、機械・設備などの更新が発生すると思われ、適時に対応していきたいと考えています。

さらに、世界的に異常気象による災害が頻発しており、今冬も雪の無い冬から２月初めに、観測史上１番の１２９ｃｍの大雪に見舞われ、道路除雪が間に合わず、流通はじめ社会生活全般に大きな影響をもたらしました。

こうした場合の出勤体制の在り方や電気･ガス･灯油などのインフラ確保、給食食材の確保など、災害を想定した備えの重要性を改めて認識したところであり、災害への対応策を進めたいと思います。

Ⅰ．多様化する保育ニーズに応える保育園

１．こでまり保育園年齢別保育内訳

年齢区分	令和７年度	令和６年度	
	４月当初	４月当初	３月末
０歳児	２	８	１３
１歳児	１６	１７	１７
２歳児	１８	１９	１９
３歳児	２０	２０	２１
４歳児	２１	２１	２２
５歳児	２１	１７	１７
合計	９８	１０２	１０９
定員比	１０９％	１１３％	１２１％

２．保育の在り方

子どもたちの育ちの中で切っても切り離せなくなったユーチューブやスマホゲーム等の存在がある中で、あらためて保育園にいる時間に人や遊びの中での実体験や様々な感情に一人ひとりが出会うことの大切さを感じる。遊びの充実や仲間の中での楽しい経験や悔しい体験など感情が動く保育を行っていきたい。またコロナ禍のクラス単独の行事などが３年間続いた後、

他のクラスのお子さんの様子を保護者が行事等で見る機会が増えたことにより、更に「保護者と共に」を原点に保育を伝えることを大切にしていきたい。

３．地域子育て支援センターの在り方～別添「帯広市地域子育て支援センターこでまり　チラシ」

４．一時保育事業～別添「一時保育のご案内」

こでまり保育園では、家庭で過ごす親子や保育園を利用していない親子のうち、突発的な事情（病気入院やお産など）や社会参加、就労等により、一時的に家庭での保育が困難な場合のほか、育児疲れによる保護者の心理的・身体的な負担軽減のため、１日又は時間単位により乳幼児を預かる保護者支援として、一時保育事業を実施しています。

対象は、他の保育園や幼稚園に通っていない１歳児から５歳児までの乳幼児で、１日の受け入れ限度は１３人とし、緊急の場合は１３人を超えて受入することもあります。

普段、集団での生活を経験していない子どもたちにとって、保護者以外の「場所と人に慣れる場」であり、「楽しい場」になるよう、そして、保護者の事情に応えられるよう事業運営に努めていきます。

Ⅱ．職員の質の向上～別紙１「職員体制」

入園児数や一時保育事業、地域子育て支援センターなどの事業に対応した体制を組んでいるが、要支援児の増加等、加配もあり厳しい職員体制となっています。

新規職員については、社会人としてのマナーや法人の諸規定などについて研修を受け、自分達の権利や義務などについて学ぶ機会を設けています。

令和７年度は、正職員１名を採用しましたが、６年度に再任用職員１名が退職しましたので総数に変化はありません。ただし、１名が産休、育児休業に入るため、実質的には１名減の体制となります。

保育士については、過重労働や待遇の低さが指摘されているため、一層の待遇改善や ICT の導入などによる事務量の軽減など働き方改革を進めていきます。

近年、保育士による「不適切な行為」が報告されていますが、背景には過重労働があるとの報道もなされており、負担軽減は重要と考えています。

指導計画書などのパソコン利用や一斉メール活用による「たより」削減など、ICT の活用のほか、勤務シフトの見直しにより保育士の事務作業時間を日中に確保するなどの改善を図っており、今年度も継続して取り組みます。

また、保育上重要な保護者とのコミュニケーションの活性化のための研修やパート職員を含めた職員同士の連携による保育の充実にも努めていきます。

さらに、人との関係で最も基本的で重要な「あいさつ」や「電話応対」、「人への気遣い」など、社会人として身につけるべき接遇について、園内での指導とともに外部講師による研修なども実施していきます。

日常保育を通しては、「子ども」を中心にして、職員全員が子どもの思いや願いを受け止め、子ども一人ひとりの発達過程に応じた保育を実践します。

職員は、保育の現場を通して、専門性を磨くとともに、子どもたちの成長の記録や振り返り、評価により、よりよい保育を提供できるよう改善に心掛けます。

Ⅲ．施設整備

２歳児保育室の床の張替えに１，０００千円を修繕費に予算計上した。

Ⅳ．地域等連携

１．地域との交流

保育園は、通常保育に加え、地域との連携や地域の子育て世代への支援の役割があり、地域の一員として町内会活動に参加するとともに、子育て世帯に寄り添った拠り所としての機能を高めていきます。

また、卒園児との交流や保育ボランティアの受け入れなど、コロナ下、自粛していた事業を再開し、多様な交流を行ってまいります。

さらに、「Ｉの３．支援センターの在り方」にも記載しているとおり、支援センターが開設している各種広場への来所の他、後期妊婦面談事業にも積極的に取り組み、子育てに対する様々な相談などに対応していきます。

２．幼保小中連携

幼保と学校の連携は、保育園児にとって非常に重要な機会となりますが、コロナ禍にあって、なかなか交流が進んでいませんでしたが、できるだけ多くの機会を設け、不安なく小学生生活に向かえるよう「一中エリア会議」をとおして、経験を積み重ねる機会を作っていきます。

近隣小学校の授業参観や日常活動など、小学校生活に触れられる機会の創出や小学生の活動を見守る機会などに取り組んでいきます。

健康な心と体、自立心、協同性、道徳性・規範意識の芽生え、言葉による伝えあい、豊かな感性と表現など、これからの時代を生きていくために必要となる資質、能力を涵養していく。

３．祖父母との関わり

在園児や卒園児の祖父母で構成するボランティア「おおでまりの会」による畑づくりや環境整備、餅つきなど歳時行事への参加が可能となり、昨年度も多くの参加をいただき、子どもたちとの交流を進めてきました。

子どもたちにとって、祖父母の智恵や体験を学ぶ機会になり、祖父母の協力を得て、充実していきます。

また、読み聞かせ、おもちゃ修理などのボランティアの皆さんにもお手伝いをいただき、おもちゃなどを大切にする心を育てていきます。

４．保育士養成支援

保育士不足が顕著になっており、保育の充実を図っていくため、今後の保育人材の確保・育成が大きな課題となっている。

このため、保育士養成校からの実習生受け入れ要請に積極的に対応し、保育士養成に寄与できるよう努めていく。

Ⅴ．　年間行事会議スケジュール　～別紙２「年間行事会議予定」

令和７年度　事業計画

ひばり保育園

（ひばり保育園の現状）

４月当初は乳児３名を含む新入児１９名が入園し、総勢８９名でスタートを切り、途中入園が０歳児９名、１歳児４名など、３月末において１４名増の１０３名が在園している。

新型コロナウイルス感染症の感染症法上の扱いが変更になった以降、新型コロナ以外にもインフルエンザやアデノウィルス、胃腸炎等、様々な感染症に罹患する様子が見受けられ、家庭内感染の要因も含め、一気に感染者が増加し、欠席する児童が多くなる事態となる月もあった。そうした中、園内で感染を広げないための対応や保育、行事などの実施に向けて職員で話し合い、様々な対策や臨機応変の対応を講じてきた結果、年長児キャンプや夏まつり、運動会、ひばりっこ発表会などの大きな行事を含め、概ね平時の状態で実施することができた。

また、当法人に移管後、懸案であった老朽・狭隘化により様々な面で保育環境に支障、制約を受けていた園舎建て替えに着手し、令和７年２月から新園舎で保育を開始した。工事施工に伴い、敷地内の使用に一部制約が生じることで、園庭遊びや行事などにこれまでとは少し異なる点も出ているが、工夫しながら取り組んできた。全体の完成は、６月を予定しており、それまでの間、引き続き児童の遊び、活動に極力、影響が生じないようにしていきたい。

Ⅰ．多様化する保育ニーズに応える保育園

１．ひばり保育園年齢別保育内訳

	令和７年度	令和６年度	
年齢区分	４月当初	４月当初	３月末
０歳児	６	３	１２
１歳児	１６	１３	１７
２歳児	１８	１７	１７
３歳児	１９	１９	１９
４歳児	２０	１８	１９
５歳児	２０	１９	１９
合計	９９	８９	１０３
	１１０％	９９％	１１４％

２．保育の在り方

各家庭で日常生活を送る中で、子どもたちがユーチューブなどの動画視聴や携帯ゲーム機を利用することが一般的となったことで生活リズムが崩れる傾向が見られ、その結果として登園時間の遅れや保育園にいる時間でもクラスの仲間、人との交流や遊びの中での実体験などにも少なからず影響を及ぼしている状況にある。子どもの成長期においては、他の子どもや人との関わり、関係性を築いていくことが大切であり、また、多くの実体験を通じて学んでいくことがとても大事なことであるため、正しいリズムによる保育園生活を通じ、感情豊かな人づくりが築けるよう保護者の理解、協力を得るようにする。

Ⅱ．職員の質の向上～別表１「職員体制」

職員同士が緊密に連携しながら子どもや保護者と円滑な意思疎通が図られるよう取り組み、各家庭との信頼に繋げていくことが求められている。

また、各クラスに支援を必要とする子どもが増え、より丁寧な関わり方が求められており、個人情報保護のルールを順守、徹底した上で必要最小限の範囲に留めながら、パート職員を含めた園全体でアレルギー対応を含めて情報を共有し、子どもにとって居心地の良い環境と保護者の支えとなるよう連携していきたい。さらに、「あいさつ」「思いやる気持ち」電話や対面での「対応」など、社会人としての基本的なルールを保ちつつ、日常保育の積み重ねが土台となって保育の質の向上へと繋がることから、そのための研鑽、各々の役割、会議の在り方など今年度も主任保育士を中心に、ひとつひとつの課題に真摯に向き合っていきたい。

Ⅲ．施設整備

園舎の建設と旧園舎解体が３月末までで終了し、６月まで予定されている園庭や駐車場などの外構工事をもって施設整備事業が終了する。また、今年度は、施設利用ルールの整備を図り、安全安心で快適な施設環境を整えていく。

Ⅳ．地域等連携

１．地域との交流

・「あそびの広場」は、園庭整備を含めた園舎利用状況を見ながら時期を含めて参加の呼びかけを検討する。

・卒園児との交流

・町内会行事への参加と保育園行事へのお誘い

・近くの事業所（グループホーム）との交流

２．幼保小中連携

・北栄小学校との交流の再開

・エリア研修会への参加（近隣の保育園、幼稚園、小学校、中学校の職員との交流）

３．祖父母との関わり

・在園や卒園した祖父母の方々へ行事（収穫祭、餅つき）にお誘いして交流する。

４．保育士養成支援

・保育士人材の確保・育成が大きな課題となっており、短期大学、養成校の実習生の受け入れを積極的に行い、保育士の養成に寄与できるよう努めていく。

Ⅴ．年間行事会議スケジュール～別表２「年間行事会議予定」

令和７年度　事業計画

児童保育センター

（東エリア児童保育センター現状）

４月当初は１年生から６年生までの児童４５３名（支援４６名）が在籍から、２月末は４１５名（支援４９名）になる。毎月入退所が多いのが特徴、また長期休みは人数に加算されてないが十数名の児童の入所があり一時的に多くなる。長期休みが１か月近くと長くなり熱中症などに配慮しながら幅広い遊びをすることで充実した学童生活を過ごすことができた。

エリア行事では、１泊２日の施設泊「キャンプ」･「１・２年生交流会」･各施設代表児童による「企画」を４回行い、対戦をするので各施設練習してきた挑み交流をした。保護者会の行事も年２・３回行い、参加人数も多く親子で１日を楽しむことができた。

日々の保育では、手作りおやつ提供の回数を増やし食育につなげる事が出来た。

少しずつ行事が増えたことで子どもたちは豊かな経験を積み重ね、保護者対応ではお迎え、懇談会で子どもの様子を伝ええる事できて信頼関係が深まった。

Ⅰ．多様化する学童保育のニーズへの対応

１．東エリア児童保育センター年齢別内訳～別表１

２．保育の在り方

学童保育の居場所になってきている背景には、放課後の子ども同士の過ごし方の変化があり、約束しないと遊べない・公園ではゲームありき・習い事の多様化で遊ぶ子がいない・防犯上危険が多い等が挙げられます。学童で楽しいことを友達とできる、自分の気持ちが素直に伝える事が出来る、友達との揉め事での解決方法を知る、外遊びが安心して動き回り好きな遊びの体験も色々出来る等、発達に応じた保育をする中で集団の中で育つ有能感・自治能力・社会性も獲得していくことができる。又切っても切り離せないゲーム通信、ユーチューブの様子を保護者から知り、生活に支障がでてきた時は、学童児との話し合いをすることがある。学童は、集団で生活するところなので、人と人の深いかかわりの中で過ごしていくことで学び合っていける事を今後も伝えていきたい。

Ⅱ．職員の質の向上～別表２「令和７年度児童保育センター職員体制」

新しく「主任支援員」の位置が出来たことで保育チームの中心になり、各リーダーと会議の在り方、エリアとして統一できるものを意識することで人材育成の話を積み重ねていき、４施設の職員集団のチームワークをどうするか改めて考えていく年にして行きたい。入所人数も多く、支援を必要とする児童も多くなり、職員、パート職員の配置体制、職員同士の連携が益々大切になる。パート職員も支援の必要な児童の見方、かかわり方の理解を共有していくことが多くなるので、「研修会」「学習会」に参加が出来るようにして保育の幅を広げていきたい。中堅職員も学童児の遊びの体験、様子、揉め事等、保護者にどのような伝え方が望ましいか会議、学習会で話し合い積み重ねていき、子ども・保護者が安心してもらえるように大切に保育を行っていきたい。

「報告・連絡・相談」の大切さを日々意識して子どもの安心・安全を守っていきたい。

Ⅲ．施設整備

施設の老朽化で今後も学童児が安全に過ごしていくことができるように市との協議の上、安全第一で、修繕していく。

Ⅳ．地域連携

１．地域との交流

福祉センターと併設しているので、地域の催しに声をかけてもらい学童児が参加することで色々と体験をさせてもらっている。単独施設においては「生涯学習推進委員」の方々が進んで施設に来ていただき「下の句カルタ教室」「鮭の勉強」を催して体験している。地域の方々との交流は、子どもたちが豊かな体験を重ねていくことができる大切な催しなので、今後も継続して参加をさせていただきたい。

２．幼保小中連携

学校の連携としては「エリアファミリー」「コミニュティースクール」に参加し「学校経営」のを聞く「エリア研修」の参加「学校行事」は学童児と共に参加をすることで学校と連携をとっていきたい。保育園（所）には子どもの様子等の引き継ぎを行います。保育園と学童との交流も行っている。

Ⅴ．行事・会議年間スケジュール～別表３　及び研修計画

別表１

令和７年度　児童保育センター学年区分別児童数内訳

施設名	定員	令和７年度	令和６年度	
		４月当初	４月当初	２月
青葉児童保育センター１	70名	73名	76名	77名
（入所率）		(104%)	(109%)	(110%)
青葉児童保育センター２	56名	43名	30名	23名
（入所率）		(77%)	(54%)	(41%)
青葉児童保育センター　合計	126名	116名	106名	100名
（入所率）		(92%)	(84%)	(79%)
光南児童保育センター	70名	59名	67名	65名
（入所率）		(84%)	(96%)	(93%)
光南児童保育センター分室１	38名	40名	34名	32名
（入所率）		(105%)	(89%)	(84%)
光南児童保育センター分室２	31名	37名	29名	24名
（入所率）		(119%)	(94%)	(77%)
光南児童保育センター　合計	139名	136名	130名	121名
（入所率）		(98%)	(94%)	(87%)
柏児童保育センター	61名	60名	62名	57名
（入所率）		(98%)	(102%)	(93%)
柏児童保育センター分室１	38名	44名	43名	40名
（入所率）		(116%)	(113%)	(105%)
柏児童保育センター分室２	38名	31名	39名	32名
（入所率）		(82%)	(103%)	(84%)
柏児童保育センター　合計	137名	135名	144名	129名
（入所率）		(99%)	(105%)	(94%)
東児童保育センター	59名	60名	55名	49名
（入所率）		(102%)	(93%)	(83%)
東児童保育センター分室	17名	15名	18名	16名
（入所率）		(88%)	(106%)	(94%)
東児童保育センター　合計	76名	75名	73名	65名
（入所率）		(99%)	(96%)	(86%)
東エリア　合計	478名	462名	453名	415名
（入所率）		(97%)	(95%)	(87%)

※令和6年度は**「月末在籍人数」**
※令和7年度は**「申込み受付人数」**（R7.3.1現在）